

96歳の証

あるが  
行く

日野原重明

2月末の朝日新聞「声」欄で「聾学校」名称、残して下さる」という静岡市の山本直樹さんという男性(35)からの投稿を眺みました。学校教育法改正をきっかけに「聾学校」が「聴覚特別支援学校」という名称に変更されることに対する



絵と題字・小田桐昭

## 「聾学校」は差別語なの？

抗議の内容でした。投稿者自身も聾学校出身のことです。

山本さんの住む静岡県では、校名変更にも聴覚障害者協会が反対し、両者の話し合いが重ねられました。が平行線のまま、県教委が2月県議会に条例案を提出し、3月19日に可決されたという経緯です。全日本聾聴連盟も改名に反対している、同様の議論は全国でも起っているようです。

3月中旬には、社会面(10日付)や「天声人語」(12日付)に関連の記事が掲載されており、その後の「声」欄にも山本さんと同様の校名変更への反対意見が載っていました。

社会面の記事は、前出の山本さん取材し、「聞てえなくてもありのままの自分で生きる。そんな私たちの誇りが『聾』という言葉にもついている。『特別支援』という言葉は、聾者を支援される低い側に位置つけてしまう」との断言を紹介していました。

「特別支援学校」という名称は、複数の障害がある子どもに対応しやすくなることなどを狙って、聾学校、盲学校、養護学校を一

つにへんる名称として考案されたようですが、いかにもお役所的で意味のつかみにくい表現です。

「聾」という言葉には、差別的なニュアンスがあり、「聴覚障害」と言い換えが進んでいるとのことですが、そもそも「聾」という言葉が差別語からの言い換えにより普及したことが忘れられているようです。

聾学校の場合、全日本聾聴連盟の調査によると、東京、山梨、群馬、愛知など校名を変えない方針を打ち出した教委もあるそうです。聾学校は全国に約100校あり、まだ方針が決まっていない地域も多く、今後議論を呼びそうです。

今回の「聾学校」の件で、私は「認知症」について思い出しました。記憶力喪失者を「痴呆」と呼んでいたのを、厚生労働省は「認知症」と改めました。

認知できない人を認知症と呼ぶ論理に矛盾を感じています。「認知失調症」か、この方面の研究を最初に始めた学者の名前をとった「アルツハイマー病」として、これを早期と晩期に分けることを提唱します。

(聖路加国際病院理事長)